

**SPARC T3-1B サーバーモジュール**  
ご使用にあたって



Part No.: E21517-01  
2010 年 12 月、Revision A

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. Government Rights. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

1. 一般情報 1
  - サポートされているシャーシ 2
    - ▼ シャーシミッドプレーンのバージョンの特定 2
  - サポートされるモジュラーコンポーネント 3
  - SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード 4
  - サポートされている Oracle Solaris OS、ファームウェア、ソフトウェアのバージョン 5
  - パッチ情報 6
    - ▼ OS、パッチ、ファームウェアアップデートへのアクセス 6
  - Oracle Solaris OS で変更された、論理デバイス名の識別方法 7
    - Oracle Solaris Jumpstart の例 8
    - 対話式インストールの例 9
2. 最新情報 11
  - ハードウェアの問題 11
    - 10GbE Dual Port SFP+ ExpressModule のホットプラグ中にサーバーモジュールがパニックを起こすことがある (CR 6974235) 11
    - 修正不可能なエラーが発生した障害のある DIMM をできるだけ早く交換する (CR 6996144) 12
  - システムファームウェアの問題 12
    - 電源投入時に、Link Width x8 Link Speed GEN1 の警告が表示される (CR 6958263) 12

特定の FEM で、SP レベルからの /SYS/MB/FEM0 の無効化が正しく動作しない (CR 6980646) 13

#### ILOM の問題 13

ILOM でプロパティの表示に失敗する (CR 6992917) 13

picld メッセージが記録される (CR 6992903) 14

#### Solaris の問題 14

prtdiag がシャーシのシリアル番号としてサーバーモジュールのシリアル番号をラベル付けする (CR 6669159) 14

Oracle VTS disktest が、USB デバイスで失敗することがある (CR 6873719) 14

正しくない nxge 警告メッセージ (CR 6938085) 15

fault.memory.memlink-uc 相互接続障害がナレッジ記事に記載されたパニック状態にならない (CR 6940599) 15

Sun Dual 10GbE PCIe EM を使用すると、ネットワークパフォーマンスが低下する (CR 6943558) 15

サポートされないポートモードのメッセージが記録される (CR 6962912) 16

システムコンソールでの正しくない割り込みメッセージ (CR 6963563) 16

Oracle Solaris OS の初期インストール時の正しくないエラーメッセージ (CR 6971896) 16

PCIe EM のホットプラグによる取り外しにより、devfasadmd エラーが生成されることがある (CR 6973637) 17

エラーレポートイベント (ereport) が機能低下したサービスプロセッサに対して生成されない (CR 6978171) 18

システムが機能低下したサービスプロセッサで起動した場合にエラー時レポートイベント (ereport) が生成される (CR 6981297) 18

QDR IB HCA Connect X-2 ExpressModule を起動またはホットプラグを行うと、エラーが生成されることがある (CR 6986528) 19

Oracle Enterprise Manager プロセスがハングアップして強制終了できなくなる (CR 6994300) 19

nxge ドライバが読み込まれない (CR 6995458) 19

#### ドキュメントの注意事項 20

SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用の手引き 20

# 第1章

## 一般情報

---

ご使用にあたっては、Oracle の SPARC T3-1B サーバーモジュールについての重要な最新情報を記載しています。

このドキュメントは、システム管理者、技術者、承認サービスプロバイダ、およびコンピュータシステムの管理経験があるユーザー向けです。

この章では、SPARC T3-1B サーバーモジュールに関する次の一般情報について説明します。

- 2 ページの「サポートされているシャーシ」
- 3 ページの「サポートされるモジュラーコンポーネント」
- 4 ページの「SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード」
- 5 ページの「サポートされている Oracle Solaris OS、ファームウェア、ソフトウェアのバージョン」
- 6 ページの「パッチ情報」
- 7 ページの「Oracle Solaris OS で変更された、論理デバイス名の識別方法」

# サポートされているシャーシ

このサーバーモジュールは、次の表に示すモジュラーシステムのシャーシでサポートされています。

モジュラーシステムのシャーシ	サポートされる機能
PCIe 2.x ミッドプレーンを備えた Sun Blade 6000 モジュラーシステム*	このサーバーモジュールは、SAS-1 および SAS-2 モジュラーコンポーネントをサポートしています。SPARC T3-1B サーバーモジュールに接続されている Gen2 対応 PCIe EM および NEM は、Gen2 速度で動作します。Gen1 対応デバイスは、Gen1 速度で動作します。 <b>注 - 4 ページの「SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード」を参照してください。</b>
PCIe 1.x ミッドプレーンを備えた Sun Blade 6000 モジュラーシステム*	このサーバーモジュールは、次の要件および制限事項付きで機能します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SPARC T3-1B サーバーモジュールに接続されている PCIe EM および NEM は、Gen1 または Gen2 対応可否に関わらず、Gen1 速度で動作します。</li><li>• シャーシに設置した SAS-1 NEM はすべて、ファームウェアのアップグレードが必要です。4 ページの「SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード」を参照してください。</li><li>• オンボード SAS-2 REM に接続されたサーバーモジュールのストレージデバイスは、SAS-2 をサポートしており、SAS-2 で動作します。</li><li>• オンボード SAS-2 REM は、SAS-1 ディスクまたはストレージモジュールには接続できません。</li></ul>

\* 2 ページの「シャーシミッドプレーンのバージョンの特定」を参照してください。

## ▼ シャーシミッドプレーンのバージョンの特定

1. CMM ILOM にログインします。
2. 次のように入力します。

```
-> show /CH/MIDPLANE
```

3. fru\_part\_number フィールドを表示します。
  - 511-1298-xx は、PCIe 2.x タイプのミッドプレーンを示しています。
  - 511-1487-xx は、PCIe 2.x タイプのミッドプレーンを示しています。
  - 501-7376-xx は、PCIe 1.x タイプのミッドプレーンを示しています。詳細は、『Sun Blade 6000 モジュラーシステムご使用にあたって』を参照してください。

# サポートされるモジュラーコンポーネント

次の表に、モジュラーサーバーでサポートされるモジュラーコンポーネントを示します。

注 – ハードウェアコンポーネント要件の最新情報については、お使いのコンポーネントのご使用にあたってを参照してください。

製品モデル番号および名前	要件
<b>Network Express Module (NEM)</b>	
<b>NEM X4338A-N –</b> Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module	この NEM には、次の要件があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SAS-2 機能では、サーバーモジュールおよび NEM X4338A-N を、PCIe2 x ミッドプレーンが設置されているシャーシに設置する必要があります。2 ページの「サポートされているシャーシ」を参照してください。</li><li>• 10GbE ネットワーク接続の場合 – FEM X4263A-N。</li><li>• ストレージ接続の場合 – SG-SAS6-REM-Z。</li></ul>
<b>NEM X2073A-N –</b> Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10GbE	この NEM には、次の要件があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SAS-2 機能では、サーバーモジュールおよび NEM X2073A-N を、PCIe 2 x ミッドプレーンが設置されているシャーシに設置する必要があります。2 ページの「サポートされているシャーシ」を参照してください。</li><li>• 10GbE ネットワーク接続の場合 – FEM X5735A または FEM 4871A-Z-N。</li><li>• ストレージ接続の場合 – SG-SAS6-REM-Z。</li></ul>
<b>NEM X4238A-N –</b> Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module	この NEM には、次の要件があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 10GbE ネットワーク接続の場合 – FEM X4263A-N。</li><li>• ストレージ接続の場合 – SG-SAS6-REM-Z。</li></ul>
<b>NEM X4236A-N –</b> Sun Blade 6000 10GbE Multi-Fabric Network Express Module	この NEM には、次の要件があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 10GbE ネットワーク接続の場合 – FEM X5735A または FEM 4871A-Z-N。</li><li>• ストレージ接続の場合 – SG-SAS6-REM-Z。</li></ul>
<b>X4250A-N –</b> Sun Blade 6000 Network Express Module 10-Port GbE Pass Through NEM	この NEM には、次の要件があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ストレージ接続の場合 – SG-SAS6-REM-Z。</li></ul> 注 – ネットワーク接続では、FEM は不要です。

製品モデル番号および名前	要件
<b>RAID Express Module (REM)</b>	
SG-SAS6-REM-Z – Sun Blade 6000 RAID 0/1 SAS2 HBA REM	この REM には、次の要件があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 設置の前に、SAS-1 コンポーネントのファームウェアをアップグレードしてください。4 ページの「SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード」を参照してください。</li> </ul>
<b>ファブリック拡張モジュール (FEM)</b>	
X5735A – 10GbE XAUI Pass-Through FEM	FEM X および FEM 0 マザーボードコネクタに設置されている必要があります。
X4871A-Z – Dual 10GbE PCIe 2.0 FEM (Intel)	FEM 0 マザーボードコネクタに設置されている必要があります。
X4263A-N – Dual 10GbE Pass-Through FEM	FEM 0 および FEM 1 マザーボードコネクタに設置されている必要があります。
<b>PCIe Expansion Module (PCIe EM)</b>	
SGX-SAS6-EM-Z – SAS2 Dual Port Express Module	
SG-XPCIEFCGBE-Q8-Z – 2x8Gb FC および 2xGbE Combo Express Module	パート番号 375-4522-02 以上のダッシュレベルである必要があります。
X7283A-Z-N – 1GbE Dual Port ExpressModule、ファイバ	
X7284A-Z-N – 1GbE Quad Port ExpressModule、銅	
X1110A-Z – 10GbE Dual Port SFP+ Express Module	
X4243A – QDR IB HCA Connect X-2	

## SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード

SAS-1 コンポーネント (SAS-1 NEM およびディスクモジュール) のファームウェアを、SAS-1 と SAS-2 の共存をサポートするバージョンにアップグレードする必要があります。

このアップグレードは、このサーバーモジュールなどの SAS-2 コンポーネントをシャーシに挿入する前に行ってください。

SAS-1 NEM および Sun Blade 6000 ディスクモジュールのすべての SAS エクスパンダを、少なくともファームウェアバージョン 5.04.03 (またはそれ以降) にアップグレードする必要があります。ファームウェアをこのバージョンにすると、Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシで SAS-1 デバイスと SAS-2 デバイスの共存が可能になります。ファームウェアのバージョンが古い場合、SAS-2 デバイスがハングアップすることがあります。

アップグレードが必要なデバイス、ファームウェアの入手方法、アップグレードの実行方法については、『SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide』を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.1b#hic>

---

## サポートされている Oracle Solaris OS、ファームウェア、ソフトウェアのバージョン

OS およびファームウェアは、出荷時にインストール済みです。次の表に、サポートされている Oracle Solaris OS、ファームウェア、ソフトウェアのバージョンを示します。

ソフトウェア	サポートされているバージョン
サーバーモジュールのホストの Oracle Solaris OS	<ul style="list-style-type: none"><li>• 10 9/10</li><li>• (最小) Oracle Solaris 10 9/10 Patch Bundle を備えた 10 10/09 OS</li></ul>
サーバーモジュールのホストの Electronic Prognostics	<ul style="list-style-type: none"><li>• 1.1</li></ul> <p>注 - このソフトウェアは、特定の FRU 障害の可能性について早期の警告を提供します。</p>
サーバーモジュールのシステムファームウェア (このバージョンで提供されるパッチ ID)	最小バージョン: 8.0.1.c (ILOM 3.0 を含む) (パッチ ID 145666-01 以降)
Oracle VM Server for SPARC (LDoms)	2.0
シャーシ管理モジュール (Chassis Management Module, CMM) ソフトウェア	ソフトウェアリリース 3.3 以降

---

## パッチ情報

サーバーモジュールの出荷準備時点で必要と判断されたパッチは、出荷前にインストール済みです。ただし、OS を再インストールする場合は、どのパッチをインストールする必要があるかを、次のリストを参照して確認してください。

Oracle Solaris 10 9/10 OS で必要なパッチ

- 143647-08 以降
- 144488-03 以降
- 144567-01 以降
- 145868-01 以降
- 145961-01 以降

Oracle Solaris 10 10/09 OS で必要なパッチ

- Oracle Solaris 10 9/10 Patch Bundle
- Oracle Solaris 10 9/10 OS で必要なすべてのパッチ (上記のリスト)

## ▼ OS、パッチ、ファームウェアアップデートへのアクセス

1. 次のシステム管理ポータルから、最新の OS、パッチ、およびファームウェア情報にアクセスします。

<http://www.oracle.com/technetwork/systems/software-stacks/stacks/index.html>

2. 「Blade Servers」の見出しの下の「SPARC T3-1B Server Module」リンクを選択します。

---

# Oracle Solaris OS で変更された、論理デバイス名の識別方法

現在 Oracle Solaris OS は、サーバーモジュールの設置時に、Sun Blade 6000 RAID 0/1 SAS2 HBA REM (SG-SAS6-REM-Z) を含むすべての SAS 2.0 ストレージコントローラの論理デバイス名で `tn` (ターゲット ID) フィールドの代わりに World Wide ID (WWID) を使用しています。

この変更は、ネットワーク経由で OS をダウンロードする場合にターゲットディスクを識別する方法に影響を及ぼします。次に、この変更の影響を理解するために重要な点を示します。

- ネットワーク経由で OS をダウンロードする場合は、HDD スロット 0 内のディスクをダウンロード先として指定してください。OBP は、このディスクをデフォルトの起動デバイスとして使用します。
- WWID を使用するよう変更される前は、このディスクは論理名 `c0t0d0` として OS に認識されていました。

この変更により、デフォルトの起動デバイスのデバイス識別名は `c0tWWIDd0` として参照されるようになります。ここで、WWID 16 進値です。この WWID 値は、予想通りの方法で HDD スロット 0 内のディスクの物理 ID にマップされません。

OS のダウンロード操作のために HDD スロット 0 を確実に識別するには、ディスクの WWID 値とその物理的な位置の対応を判断する必要があります。これを行うには、`probe-scsi-all` を実行し、出力を確認します。

`probe-scsi-all` 出力で、次のディスク識別子を探します。

- `SASDeviceName` - Oracle Solaris OS が認識する WWID です。
- `SASAddress` - OpenBoot PROM が参照する WWID です。
- `PhyNum` - ディスクが占有する物理 HDD スロットです。この番号も 16 進値として表現されます。

お使いのサーバーモジュールは、1 つのオンボード SAS コントローラで、4 つの接続されているデバイスすべてをコントロールします。次に、2 つのドライブがある SPARC T3-1B サーバーモジュールの `probe-scsi-all` の出力例を示します。

---

注 - この例では、HDD スロット 0 に設置されたディスクの PhyNum の値は 0、SASDeviceName は 5000c500231694、ターゲット番号は 9 です。

---

```
{0} ok probe-scsi-all
/pci@400/pci@1/pci@0/pci@7/pci@0/usb@0,2/hub@5/storage@3
  Unit 0   Removable Disk      smiUnigen   PSA4000           1100

/pci@400/pci@1/pci@0/pci@7/pci@0/usb@0,2/hub@3/storage@2
  Unit 0   Removable Read Only device  AMI         Virtual CDROM    1.00

/pci@400/pci@1/pci@0/pci@2/LSI,sas@0      <===== SAS Controller

MPT Version 2.00, Firmware Version 4.05.52.00

Target 9
  Unit 0   Disk      SEAGATE ST930003SSUN300G0868   585937500 Blocks, 300 GB
  SASDeviceName 5000c500231694cf SASAddress 5000c500231694cd PhyNum 0
Target a
  Unit 0   Disk      SEAGATE ST973402SSUN72G 0603   143374738 Blocks, 73 GB
  SASDeviceName 5000c50003d37fcb SASAddress 5000c50003d37fc9 PhyNum 1
```

## Oracle Solaris Jumpstart の例

次の Oracle Solaris Jumpstart プロファイル例は、特定のディスクドライブに OS をインストールする場合に WWID 構文を使用する方法を示しています。SASDeviceName は、前述の構成から取得されています。

---

注 - Oracle Solaris 構文規則では、すべての英字を大文字にする必要があります。

---

```
#
install_type flash_install
boot_device c0t5000C500231694CFd0 preserve

archive_location nfs
129.148.94.249:/export/install/media/solaris/builds/s10u9/flar/latest.flar

# Disk layouts
#
partitioning explicit
filesystems rootdisk.s0          free /
filesystems rootdisk.s1          8192 swap
```

## 対話式インストールの例

対話式インストールでは、1つまたは複数のディスクを OS インストールのターゲットとして指定するよう求められます。この手順の目的は、インストールに十分なディスク容量があることを確認することです。この手順では、ソフトウェアのインストール先にするドライブに対応した WWID 値を持つディスクを指定します。

これらの WWID 値を、次の対話型の例に示します。インストール先として選択されたドライブは HDD スロット 0 (デフォルトの OBP 位置) です。

---

**注** – その他のディスクを使用する場合は、HDD スロット 0 内のディスクではなく、その他のディスクを指定できます。

---

```
_ Select Disks _____

On this screen you must select the disks for installing Solaris software. Start
by looking at the Suggested Minimum field; this value is the approximate space
needed to install the software you've selected. Keep selecting disks until the
Total Selected value exceeds the Suggested Minimum value.
NOTE: ** denotes current boot disk

Disk Device                                Available Space
=====
[ ] c0t5000C50003D37FCBd0                  286090 MB
[X] c0t5000C500231694CFd0                  286090 MB (F4 to edit)

                                Total Selected: 286090 MB
                                Suggested Minimum: 5032 MB

_____
Esc-2_Continue  F3_Go Back   F4_Edit   F5_Exit   F6_Help
```



## 第2章

# 最新情報

---

この章では、SPARC T3-1B サーバーモジュールに関する次の最新情報について説明します。

- [11 ページの「ハードウェアの問題」](#)
- [12 ページの「システムファームウェアの問題」](#)
- [13 ページの「ILOM の問題」](#)
- [14 ページの「Solaris の問題」](#)
- [20 ページの「ドキュメントの注意事項」](#)

---

## ハードウェアの問題

### 10GbE Dual Port SFP+ ExpressModule のホットプラグ中にサーバーモジュールがパニックを起こすことがある (CR 6974235)

Express Module の ATTN ボタンを使用して、SPARC T3-1B サーバーモジュールに接続されている 10GbE Dual Port SFP+ Express Module のホットプラグによる取り外しを開始すると、サーバーモジュールで実行中の Oracle Solaris OS がパニックになることがあります。

ATTN ボタンは、SPARC T3-1B サーバーモジュールに接続されたスロットにホットプラグで同じ Express Module を挿入する場合は安全に使用できます。

**回避方法:** PCIe EM ATTN ボタンを使用しないでください。SPARC T3-1B サーバーモジュールに接続された 10GbE Dual Port SFP+ Express Module をホットプラグによる取り外しには、代わりに Oracle Solaris `cfgadm(1M)` コマンドを使用します。

たとえば、スロット PCI-EM1 の Express Module を `cfgadm` を使用してホットプラグによって取り外すには、Express Module に接続された Oracle Solaris インスタンスで次のコマンドを実行します。

```
# cfgadm -c unconfigure PCI-EM1
# cfgadm -c disconnect PCI-EM1
```

## 修正不可能なエラーが発生した障害のある DIMM をできるだけ早く交換する (CR 6996144)

DIMM に修正不可能なエラー (UE) が発生すると、サーバーは `fault.memory.bank` エラーを生成し、DIMM に障害があることを示すラベルを付けます。このエラーは、Oracle ILOM の `show faulty` コマンドまたは `fmdump -v` コマンドを使用して表示することができます。

システムの DIMM で修正不可能なエラーが持続する (複数回再起動してもエラーが発生する) 場合は、サーバーのダウンタイムを回避するためにできるだけ早くこの DIMM を交換してください。

**回避方法:** 修正不可能な DIMM をできるだけ早く交換します。

---

## システムファームウェアの問題

### 電源投入時に、Link Width x8 Link Speed GEN1 の警告が表示される (CR 6958263)

まれに、SPARC T3-1B サーバーモジュールの電源投入時に、システムで OBP プロンプトが表示される前に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: ios0, peun Link Width x8 Link Speed GEN1.
```

**回避方法:** OBP プロンプトで、次のようにシステムをリセットします。

```
ok reset-all
```

## 特定の FEM で、SP レベルからの /SYS/MB/FEM0 の無効化が正しく動作しない (CR 6980646)

10GbE XAUI Pass-Through FEM 経由で接続された SPARC T3-1B NIU 10GbE ポートを無効にする場合は、ILOM DMTF CLI から /SYS/MB/FEM0 NAC 名を使用しないでください。

**回避方法:** /SYS/MB/CMP0/NIUx を代わりに使用します。

たとえば、NIU ポート 0 を無効にするには、SP から次のコマンドを使用します。

```
-> set /SYS/MB/CMP0/NIU0 component_state=Disabled
Set 'component_state' to 'Disabled'
```

---

## ILOM の問題

### ILOM でプロパティの表示に失敗する (CR 6992917)

まれに、サーバーモジュールのサービスプロセッサの ILOM CLI で power\_state およびその他のプロパティを、次の例に示すように表示できないことがあります。

```
-> show -display properties /SYS power_state
show: No matching properties found.
```

**回避方法:** 次の回避方法のいずれかを実行します。

- シリアルコンソール経由で ILOM CLI にアクセスする場合、このコマンドを再試行します。
- ssh 接続経由で ILOM CLI にアクセスしている場合、接続を再確立してこのコマンドを再入力します。
- まれに、上記の回避方法でこの問題が解決されません。この場合は、次の手順でサービスプロセッサをリセットしてください。

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
```

## picld メッセージが記録される (CR 6992903)

時々、次の警告メッセージが、`/var/adm/messages` ファイルに記録されることがあります。

```
picld[177]: [ID 629468 daemon.warning] PICL snmpplugin: cannot get
entPhysicalName (row=xxx)
```

**回避方法:** これらのメッセージは害がないため、無視してかまいません。

---

## Solaris の問題

### prtdiag がシャーシのシリアル番号としてサーバーモジュールのシリアル番号をラベル付けする (CR 6669159)

`prtdiag -v` 出力の最後の数行に、サーバーモジュールのシリアル番号がシャーシのシリアル番号として表示されます。このラベル付けは、モジュラーシステムのシャーシのシリアル番号だと解釈される場合があるため、誤解を招きます。

**回避方法:** `prtdiag` シャーシシリアル番号がサーバーモジュールのシリアル番号であることに注意してください。

### Oracle VTS `disktest` が、USB デバイスで失敗することがある (CR 6873719)

---

注 – Oracle VTS は以前は SunVTS と呼ばれていました。

---

正面のドングルケーブルまたは内蔵 USB ポートに接続されている USB ディスクが、Oracle VTS `disktest` の実行後 5 時間以上たっても失敗することがあります。

**回避方法:** USB を使用しているアプリケーションの使用をすべて停止します。その後、USB ポートを `cfgadm -x usb_reset [...]` コマンドを使用してリセットします。

## 正しくない nxge 警告メッセージ (CR 6938085)

サーバーの標準操作中、システムコンソールまたは Oracle Solaris /var/adm/messages ファイルに次の警告メッセージが表示されることがあります。

```
date/time machinename nxge: [ID 752849 kern.warning] WARNING: nxge0 :  
nxge_hio_init: hypervisor services version 2.0
```

**回避方法:** これらのメッセージは害がなく、無視してかまいません。

## fault.memory.memlink-uc 相互接続障害がナレッジ記事に記載されたパニック状態にならない (CR 6940599)

fault.memory.memlink-uc 相互接続エラーが検出された場合、システムはメモリーの整合性を守るためにシャットダウンする必要があります。断続的な状況で、このエラーはブート処理時にシステムがシャットダウンされることなく報告されました。

この不規則な動作はシステムがメモリーリンクエラーから回復し、正常な起動状態を復元できたことを示している可能性があります。最も安全な方法は電源切断および電源投入処理を実行することです。

**回復方法:** サーバーモジュールの電源を切つてすぐに入れ直します。

## Sun Dual 10GbE PCIe EM を使用すると、ネットワークパフォーマンスが低下する (CR 6943558)

2 つ以上のポートを、複数の Sun Dual 10GbE PCIe 2.0 PCIe EM で使用すると、大量のパケットロスが発生することがあります。その結果、送信および受信のパフォーマンスが著しく低下します。

**回避方法:** 次の手順を実行して、ixgbe ドライブのフロー制御を有効にします。この処置で、パケットロスが大幅に減り、パフォーマンスが改善します。

スーパーユーザーとして、次の行を /kernel/drv/ixgbe.conf ファイルに追加します。

```
flow_control = 3;
```

その後、サーバーモジュールを再起動します。

## サポートされないポートモードのメッセージが記録される (CR 6962912)

10GbE XAUI Pass-Through FEM が、互換性のない NEM (3 ページの「サポートされるモジュラーコンポーネント」) に示されていない NEM と FEM の組み合わせなどで使用されていると、次のメッセージが /var/adm/messages ファイルに表示されることがあります。

```
nxge: [ID 752849 kern.warning] WARNING: nxge1 :
nxge_n2_kt_serdes_init:port<0> - unsupported port mode 8
nxge: [ID 752849 kern.warning] WARNING: nxge1 :
nxge_n2_kt_serdes_init:port<1> - unsupported port mode 8
nxge: [ID 752849 kern.warning] WARNING: nxge1 :
nxge_n2_serdes_init: Failed to initialize N2 serdes for port<0>
nxge: [ID 752849 kern.warning] WARNING: nxge1 :
nxge_n2_serdes_init: Failed to initialize N2 serdes for port<1>
```

**回避方法:** お使いのサーバーモジュールが、正しい NEM と FEM の組み合わせで構成されていることを確認します。これらのメッセージは、ハードウェアまたはソフトウェアの不良を示すものではなく、無視してかまいません。

## システムコンソールでの正しくない割り込みメッセージ (CR 6963563)

標準操作中や Oracle VTS システムエクササイズを実行中、システムコンソールまたは /var/adm/messages ファイルに次のメッセージが表示されることがあります。

```
date time hostname px: [ID 781074 kern.warning] WARNING: px0: spurious
interrupt from ino 0xn
date time hostname px: [ID 548919 kern.info] ehci-0#0
date time hostname px: [ID 100033 kern.info]
```

**回避方法:** これらのメッセージは無視してかまいません。

## Oracle Solaris OS の初期インストール時の正しくないエラーメッセージ (CR 6971896)

この問題は、キーボード、マウス、モニターを使用してインストールを実行しているときにのみ発生します。

miniroot は、サーバーモジュールを起動して OS を設定するために必要な最小限の Oracle Solaris OS ソフトウェアを含む、起動可能なルートファイルシステムです。miniroot は、インストール処理中のみ実行します。サーバーモジュールが、初期構成のため miniroot を起動すると、次のメッセージがシステムコンソールに表示されることがあります。

```
Fatal server error:
InitOutput: Error loading module for /dev/fb
giving up.
/usr/openwin/bin/xinit: Network is unreachable (errno 128):
unable to connect to X server
/usr/openwin/bin/xinit: No such process (errno 3): Server error.
```

このメッセージは、Oracle Solaris OS miniroot 内の Xsun サーバーで、サービスプロセスの AST グラフィックスデバイスのサポートされているドライバが見つからないことを示します。

これらのメッセージは、miniroot には Xsun 環境のみが含まれていて、AST フレームバッファ (astfb) は Xorg 環境でのみサポートされているために表示される、予想されるメッセージです。Xorg 環境は、インストールされている OS に含まれます。したがって、インストールされている OS の起動中に、グラフィックスデバイスを使用できません。

**回避方法:** これらのメッセージは無視してかまいません。

## PCIe EM のホットプラグによる取り外しにより、`devfsadm` エラーが生成されることがある (CR 6973637)

このサーバーモジュールに接続された PCIe EM の場合、ATTN ボタンを使用して PCIe EM をホットプラグで取り外す準備をすると、次のエラーが生成されることがあります。

```
devfsadm[202]: failed to lookup dev name for
/pci@400/pci@2/pci@0/pci@1/.....
```

**回避方法:** これらのエラーは無視してかまいません。

## エラーレポートイベント (ereport) が機能低下したサービスプロセッサに対して生成されない (CR 6978171)

サービスプロセッサが機能低下した状態で動作している場合、次の誤ったイベントエラーレポート (ereport) が生成されます。

```
ereport.fm.fmd.module
```

ただし、機能低下したサービスプロセッサは、次の ereport を生成します。

```
ereport.chassis.sp.unavailable
```

ereport イベントを表示するには、`fmdump -eV` コマンドを使用します。詳細については `fmdump(1M)` マニュアルページを参照してください。

**回避方法:** すべてのサービスプロセッサの障害を解決し、サービスプロセッサが標準状態で動作するようにします。

## システムが機能低下したサービスプロセッサで起動した場合にエラー時レポートイベント (ereport) が生成される (CR 6981297)

システムが機能低下したサービスプロセッサで起動した場合、システムが問題を正しく記述していないエラーレポートイベント (ereport) を生成します。ereport は、次の障害 ereport ではなく、サービスプロセッサに接続不可能であると記述されなければなりません。

```
msg = error: bad conn open during ver negot: errno 5
```

ereport イベントを表示するには、`fmdump -eV` コマンドを使用します。詳細については `fmdump(1M)` マニュアルページを参照してください。

**回避方法:** すべてのサービスプロセッサの障害を解決し、サービスプロセッサが標準状態で動作するようにします。

## QDR IB HCA Connect X-2 ExpressModule を起動 またはホットプラグを行うと、エラーが生成され ることがある (CR 6986528)

QDR IB HCA Connect X-2 ExpressModule (X4243A) が設置されている Oracle Solaris OS の起動時や、このデバイスでホットプラグを使用した場合に、Oracle Solaris 予測的自己修復テクノロジーが、単一の訂正可能なエラーイベントを検出します。このエラーイベントは害がなく、無視してかまいません。

---

**注** – 2 時間以内に 6 つ以上の起動またはホットプラグ操作を実行した場合、この短時間の間に、複数のエラーイベントが発生し、Oracle Solaris 予測的自己修復に障害が発生します。この障害を修復するには、予測的自己修復機能に関する Oracle Solaris 文書を参照してください。

---

**回避方法:** ご購入先に問い合わせ、この問題を解決するバージョンのファームウェアを取得してください。

## Oracle Enterprise Manager プロセスがハングアップ して強制終了できなくなる (CR 6994300)

Oracle Enterprise Manager の Java プロセスがハングアップしてサーバーモジュール上で強制終了できないことがあります。Enterprise Manager プロセスがハングアップすると、プロセスはその Web UI ポート上で待機し続けるため、プロセスを強制終了することができません。この問題は、Oracle Database ソフトウェアにバンドルされた Java SE 5.0 バージョン、および最新のダウンロード可能な Java SE 6 Update 22 バージョンを実行するサーバー上で発生します。

**回避方法:** システムを再起動します。問題が繰り返し発生する場合は、ご購入先にお問い合わせください。

## nxge ドライバが読み込まれない (CR 6995458)

Oracle Solaris 10 10/09 が Oracle Solaris 10 9/10 Patch Bundle と共に SPARC T3-1B サーバーモジュールにインストールされている場合、SPARC T3 NIU ポートが Oracle Solaris で使用不可能になることがあります。

**回避方法:** 次の項目を `/etc/driver_aliases` ファイルを追加して Oracle Solaris を再起動します。

```
nxge "SUNW,nius1-kt"
```

---

# ドキュメントの注意事項

## SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用の手引き

『SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用の手引き』(E21522-01)の4ページの「サーバーモジュール SP の ILOM へのアクセス」の手順では、このタスクを正常に完了するための詳細が十分に記載されていない場合があります。

**回避方法:** 最新リリースの『SPARC T3-1B サーバーモジュールご使用の手引き』を参照してください。または、『SPARC T3-1B サーバーモジュール設置マニュアル』の「モジュラーシステム CMM (Web インタフェース) の Ethernet ポートを使って接続する」の手順を参照してください。または、設置に他の接続方法を使用する詳細が記載されたマニュアルを参照してください。